

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**警告**

- 門扉は人や車が入り出すためのものです。構造によって開閉する方法が異なりますので、設置の場所・目的に合わせて選択してください。

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。

<施工上のご注意>

**注意**

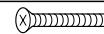
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

■梱包明細表

【1】 シリンダー錠セット

名称	略図	員数	
		両錠	片錠
錠掛け側		1	1
錠受け側 両開き用		1	—
錠受け側 片開き用		—	1
シリンダーキー		3	3
【1-1】M5×45サラ小ネジ		4	2
【1-2】M5×25サラ小ネジ		—	2
取付説明書〈A440〉	—	1	1
取扱説明書〈UA162〉	—	1	1

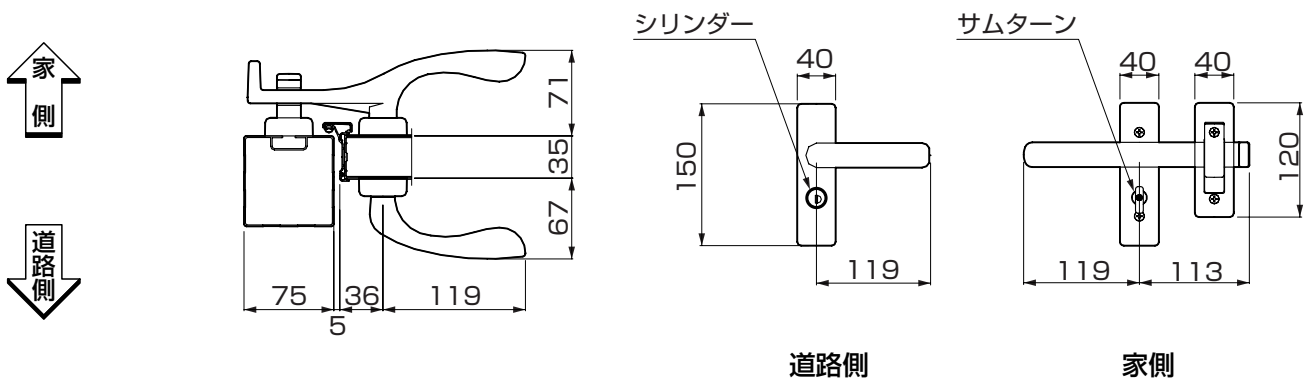
【2】 空錠セット

名称	略図	員数	
		両錠	片錠
錠掛け側		1	1
錠受け側 両開き用		1	—
錠受け側 片開き用		—	1
落とし棒フランジ		3	1
【2-1】M5×45サラ小ネジ		4	2
【2-2】M5×25サラ小ネジ		—	2
取付説明書〈A440〉	—	1	1
取扱説明書〈UA162〉	—	1	1

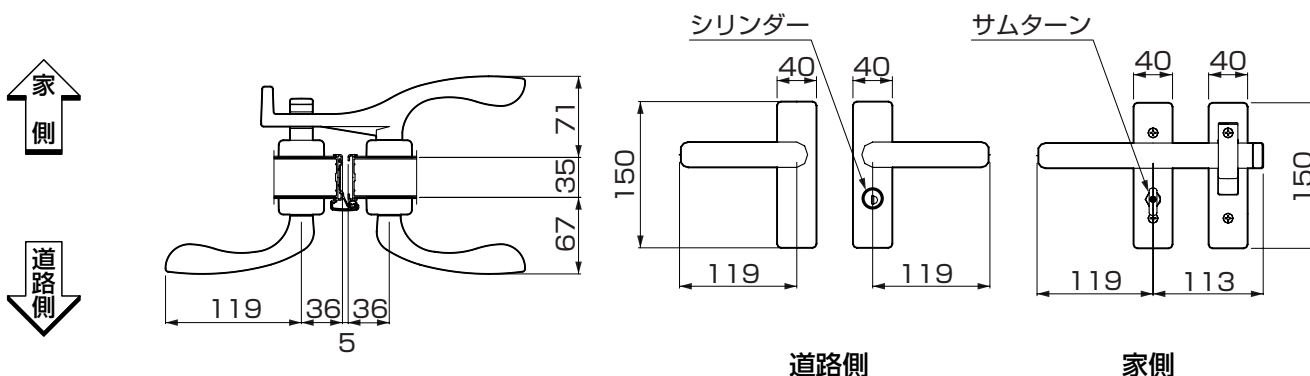
1. 錠の納まり寸法

※図は、右勝手内開きを示します。空錠の場合、シリンダー及びサムターンはありません。

1-1 片錠

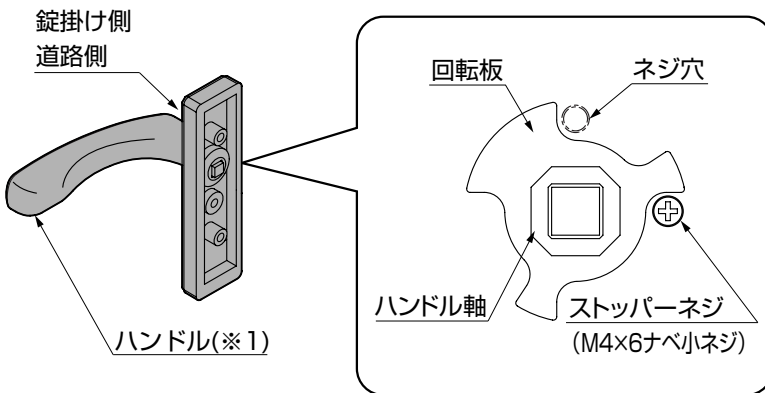


1-2 両錠



2. 左右勝手、内外開きの変更

※出荷段階(初期設定)では右勝手外開きです。下記にしたがって、それぞれに変更してください。



①ストッパーネジの取付パターン表にしたがって、ストッパーネジの取付位置を変更してください。

ポイント

●ハンドル(※1)は必ず水平にして作業してください。

ストッパーネジの取付パターン表 ※図は両錠タイプですが、片錠タイプも同様です。

左勝手		右勝手	
内開き	外開き	内開き	外開き(初期設定)

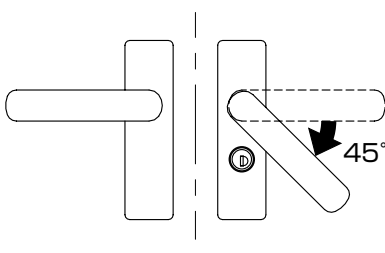


図2-1 内開き

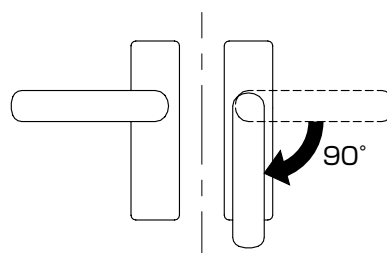


図2-2 外開き

②ハンドルを下に押し下げてください。
③内開きの場合は約45°でストップすることを、また、外開きの場合は約90°でストップすることを確認してください。

(図2-1、図2-2参照)

ポイント

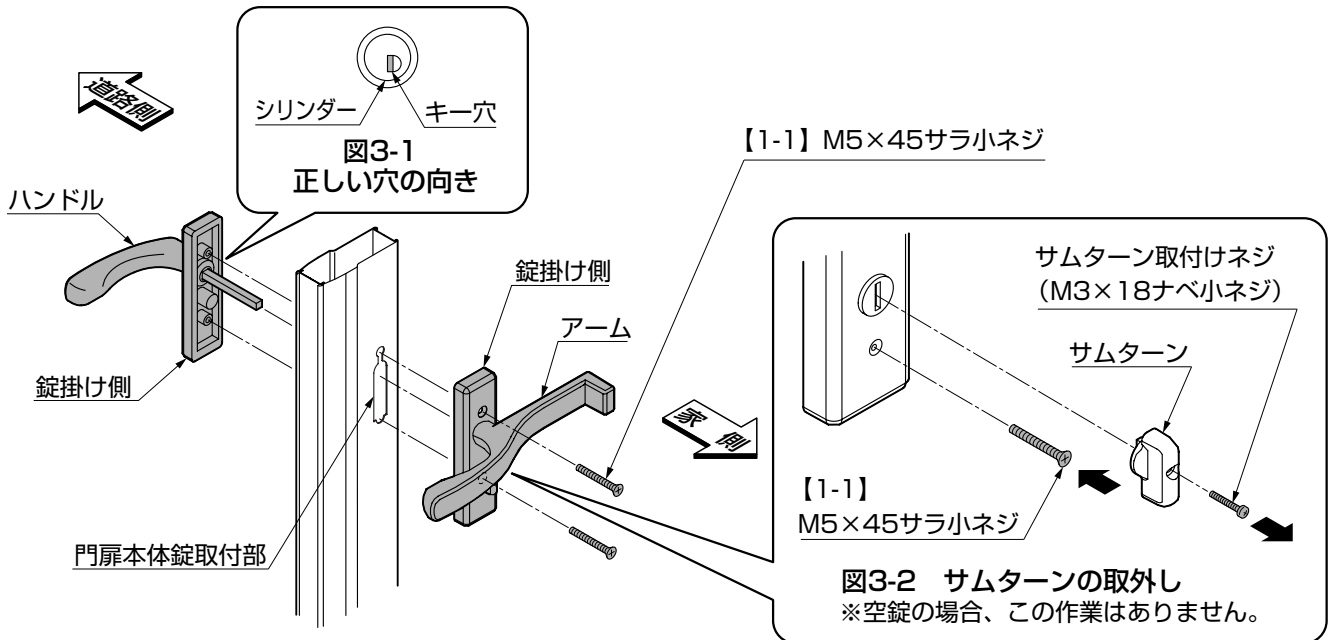
●外開きの場合、ハンドルの押し下げ角度を約45°の位置でストップさせることは機構上できません。

3. 錠の取付け

3-1 両錠の場合

※図は、右勝手を示します。

(1) シリンダー錠掛け側



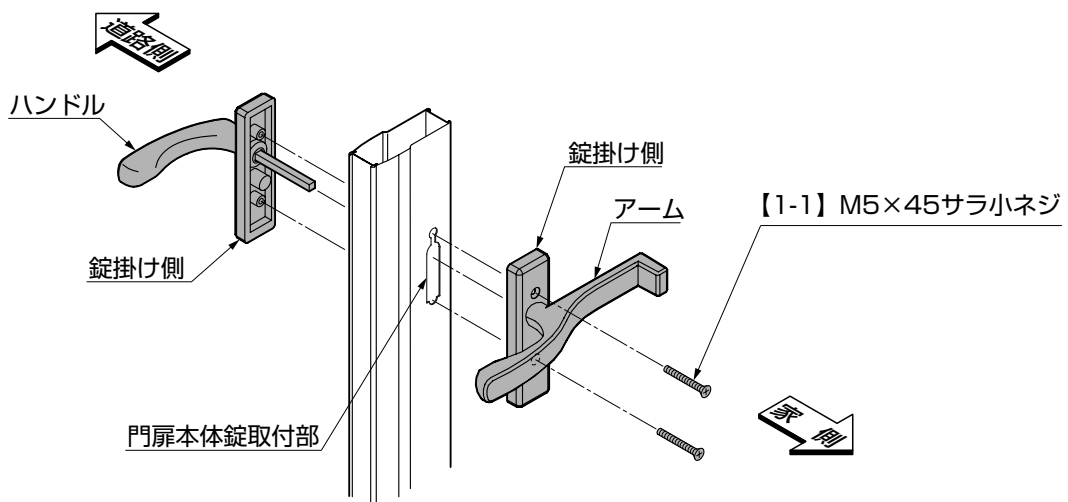
①図にしたがって、サムターンをいったん取外してから、錠を門扉に取付けてください。

ポイント

- キーを挿したまま錠の組付けを行なうときは、キー穴を正しい向きに合わせてください。正しい向きで組付けを行なわないと、キーが抜けなくなります。(図3-1参照)
- 錠掛け側を取付けるときには、いったんサムターンを取外してから【1-1】で固定してください。サムターンを付けたままでは、【1-1】と干渉してネジを締めることができません。(図3-2参照)

(2) 空錠掛け側

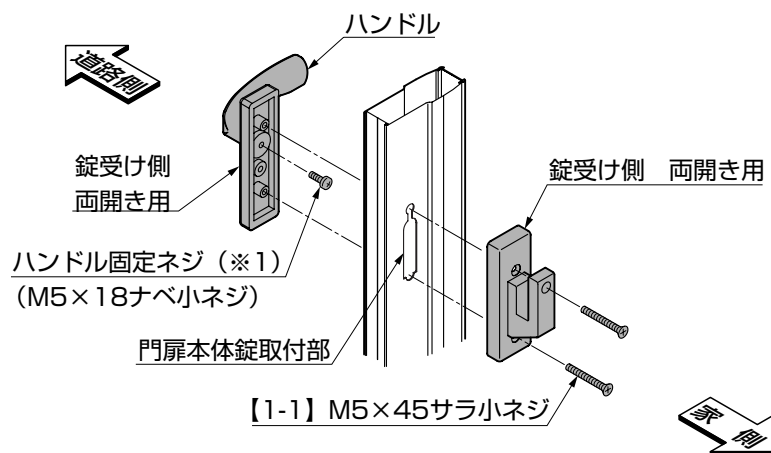
※空錠の場合、シリンダー及びサムターンはありません。



①図にしたがって、錠を門扉に取付けてください。

3. つづき

(3) 錠受け側



①図にしたがって、錠受けを門扉に取付けてください。

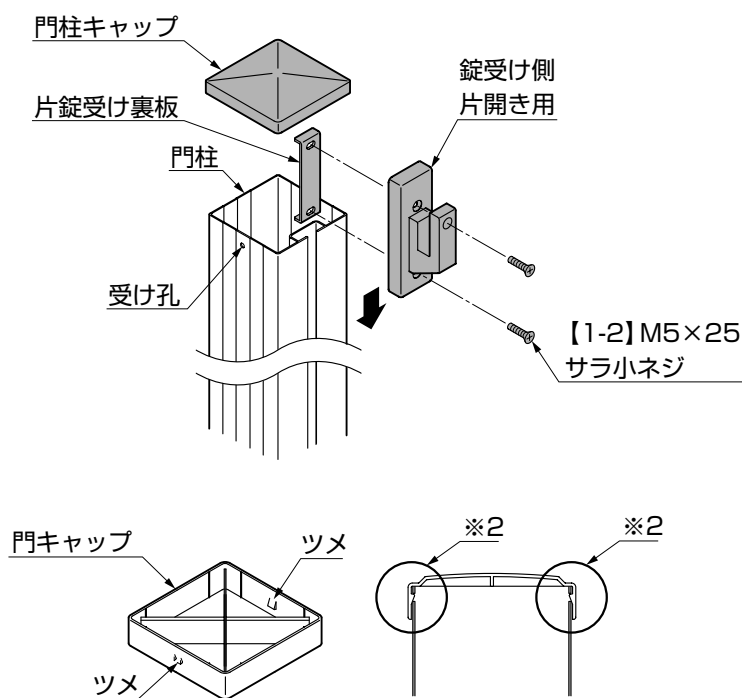
ポイント

●勝手の向きに注意して、ハンドルを「ハンドル固定ネジ」(※1)で取付けてください。

3-2 片錠の場合

(1) 錠掛け側 ※ 3-1 両錠の場合(1)錠掛け側を参照してください。

(2) 錠受け側



①図にしたがって、錠受けと門柱キャップを門柱に取付けてください。

ポイント

- 片錠受け裏板は門柱に仮止めしています。取外して使用してください。
- 門柱キャップのツメと門柱の受け孔を合わせて、確実にツメが引っ掛かるように、はめ込んでください。(※2)

4. サムターンの操作とエマージェンシー機構

4-1 サムターンの操作方法

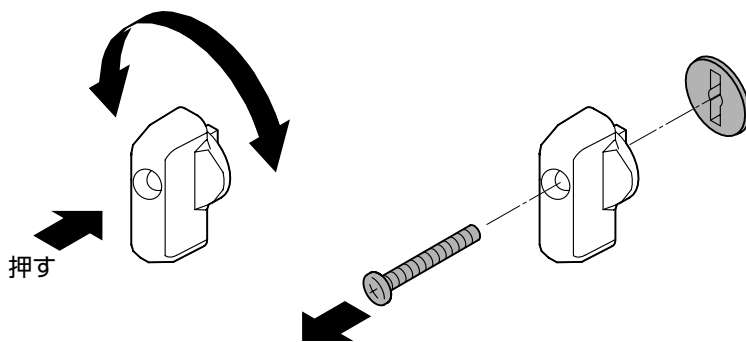


図4-1

- ①サムターンを押しながら回して、施錠・解錠してください。

補足

- サムターンを取外すと、コインやキーなどがないと回せない仕様になります。
(「4-2 エマージェンシー機構への変更」、図4-1参照)

4-2 エマージェンシー機構への変更

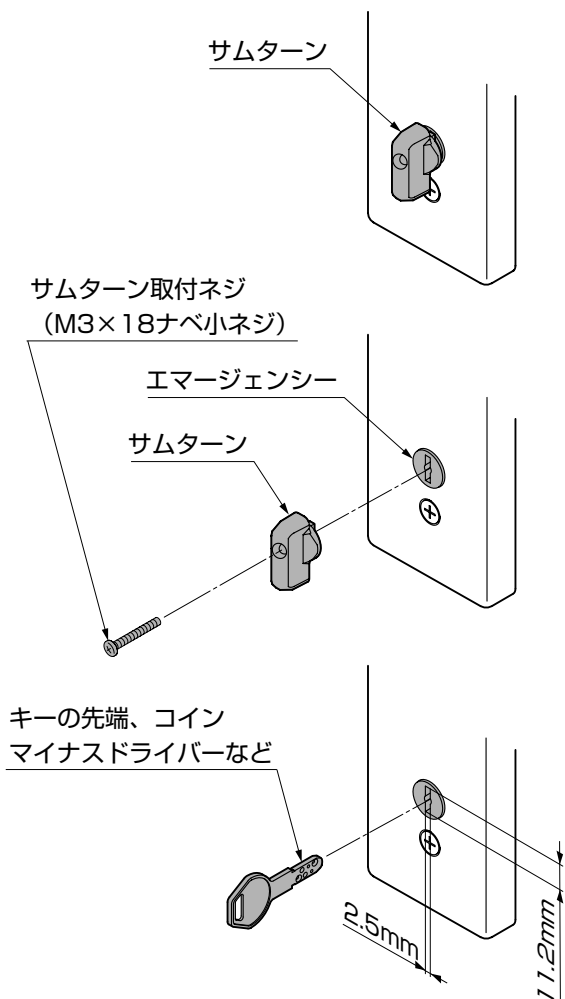


図4-2

- ①出荷段階では家側にサムターンがついていっていますので、手で施錠・解錠の操作を行ってください。
- ②エマージェンシー機構に変更する場合は、中央のネジをゆるめてサムターンを取外してください。

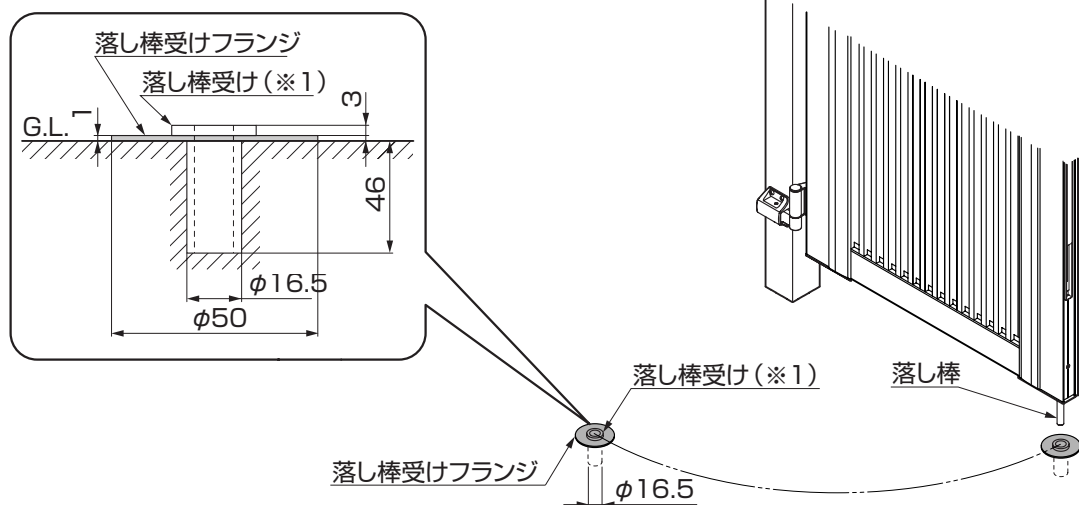
補足

- エマージェンシー機構に変更すると、家側からの施錠・解錠操作が素手ではできなくなり、外側から手を伸ばして解錠する、等のいたずらを制約することができます。
- 「エマージェンシー機構」で施錠・解錠をするには、2.5mm×11.2mm幅の溝に入るキーの先端やコイン、マイナスドライバーなどを差込んで回してください。

注意

- 「エマージェンシー機構」は、いたずらのある程度抑止できますが、部外者の解錠操作を完全に防止するものではありません。

5. 落し棒受けフランジの取付け ※空錠を取付けた場合の作業です。



① 落し棒受けフランジに落し棒受けを差込み、施工してください。

ポイント

- 落し棒受けフランジは、穴あけ時に床面にヒビが生じた場合に使用してください。
- 落し棒受け (※1) は、門扉本体の梱包に入っています。

取説コード

A440

JZZ614161C
200702A_1001
201607D_1049